

「全世界がキャンパス」といえる大学を目指したい

関西外国語大学 理事長
谷本 榮子



たにもと・えいこ氏

1986年 米国モーニングサイド大学(アイオワ州)
L.H.D. (Doctor of Humane Letters)
1992年 米国バンフィック大学(オレゴン州)
L.H.D. (Doctor of Humane Letters)
2001年 ドミニカ共和国サンティアゴ工科大学
Doctorado Honoris Causa
2006年 コロンビア共和国CESA(経営大学) 名誉勲位
2007年 アルゼンチン・プラスバスカル大学 名誉学位
中国・北京語言大学 名誉教授

本学創立者の一人である谷本昇は、もともと商業学校の英語教師でした。しかし太平洋戦争の最中に敵性語の教育は許されず、やむなく数学を教えていたといいます。終戦を迎え、英語教育の再開を喜び、新たな決意をしました。二度と戦争を繰り返してはならず、そのためには様々な国・地域の人々の立場や文化を理解できる教育を行わなければならない。そうした強い決意のもと1945年(昭和20年)11月、夫人の多加子とともに、「谷本英学院」を大阪市東住吉区に設立しました。それが本学の淵源です。

8人の受講生からスタートした谷本英学院は47年に関西外国語学校となり、53年には関西外国語短期大学開設(大阪市住吉区万代)、66年に関西外国語大学開設(枚方市北片鉾町)と、少しずつ拡充してまいりました。農家の方々に先祖代々の土地をお譲りいただいたり、留学生のホームステイを引き受けてもらうなど、地域の皆様の多大なるご支援があったからこそ本学の今日があるものと思っております。

留学がグローバル人材をつくる

大学設立にあたり、本学のカラーをつくっていきたいと考え、「国際交流」に注目するようになりました。

ジャパノロジーのコースを持っているアメリカの大学に手紙を送り、交流を打診すると、アーカンソー大学が真っ先に手を挙げてくれました。68年の夏に先方の教授や学生19人が本学を訪れ、日本の歴史や文化の講義を受講する一方、京都や奈良を訪れたり、一緒に盆踊りをしました。翌年には本学の学生がアーカンソーを訪問しました。これが本学の国際交流の原点です。「世界中から集まる留学生と本学の学生が、夢や人生を語り合えるキャンパスにしたい」。その思い一筋に40年間、国際交流を推進してまいりました。

現在、単位互換提携校は世界50カ国・地域の325大学に達しました。年間1600人の学生を送り出し、海

外から700人を受け入れています。特にアメリカからの留学生が多く、アメリカから日本の大学に来る留学生のほぼ3人に1人は本学で学んだというデータもあります。ダニエル・カールさんやジェロさんなど、日本に残って活躍する方も多いですね。留学生が在籍する留学生別科(ASIAN STUDIES PROGRAM)は国際レベルの大学教育を英語で行っており、アメリカから直接招聘した教員も多く、海外では上々の評価をいただいております。

一方、本学からの留学は、本人にとっても得るもの大きいと思っています。海外に出れば何から何まで自分でやらなければなりませんし、試験の結果が悪ければ即帰国です。そういう環境に身を置くことで勉学に対する自覚が生まれます。人間的に強く、大きくなることもできます。本人のキャリア形成にとって望ましいのと同時に、グローバル社会で活躍する人材を養成したい本学にとっても、こうした国際交流の意義は大きいといえます。

「ハブ・キャンパス」構想を推進したい

国際交流を一層拡大していくために、「ASEAN+3」大学コンソーシアムというわが国で例のない試みをスタートさせました。本学と中国、韓国、さらにASEANの大学が連携して次世代のアジアを担う人材を育成していくことを目指したものです。文部科学省の教育GPに選定され、本年3月には本学で調印式が行われました。このコンソーシアムにより、今後、提携大学がダブルディグリー(二重学位)を目指す学生を相互に受け入れていくことになります。

ご承知のように文部科学省は「留学生30万人計画」を打ち出していますが、多くの留学生を呼び込むには、どのような取り組みを提供できるかにかかっています。本学留学生別科ではかねてより多数の授業を英語で開講しており、そのノウハウを使って英語で授業を行う本コンソーシアムは、この計画に対する本学のひ

とつの回答といえます。

私はこれを契機に、本学を「ハブ・キャンパス」として機能させていきたいと考えています。アジアの学生が本学で学ぶのはもちろん、本学のネットワークを活用して欧米にも飛び出してほしい。世界へ飛び立つことがあたりまえの大学、つまり「全世界がキャンパス」といえるような大学を目指したいのです。これは夢物語ではなく、これまでに数多くの学生が海外の大学で政治や経済、文化人類学等を修めています。本学のネットワークを使えば、総合大学以上の学びが実現するという証です。問題は、このことが社会的にあまり認知されていないことでしょう。そのあたりが今後の課題のひとつといえるかもしれません。

本学は世界中の大学の動きをウォッチし、教育内容や運営体制について、比較的早くから手を打ってきたつもりでした。しかし、わが国の教育環境の変化はそれ以上のスピードで進んでおり、本学もあらためて大学全体の見直しに着手しています。

まず学内に「将来構想検討委員会」を立ち上げました。学部、学科の今後のありようや、現在の学生数が適正規模かどうかなどをあらゆる角度から検討し、学内各部署からの意見もいただきながら大学全体を見直していきたいと考えています。また、世界中に本学で学んだ人たちがいますが、大学が組織した同窓会はまだまだございません。本学を今後一層サポートしていただくためにも近々、同窓会を立ち上げたいと考え、準備室を設置いたしました。

地域貢献としては、本学の得意とする外国語教育を無償で提供する機会も増やしています。小学生や中学生が英語を学び、英語で遊ぶセミナー、高校生のためのTOEFL講座、中国語講座など、地域の子どもたちが外国語に親しみ、関西外大に親しむ機会を設けることで、将来のサポーターが少しでも増えてくれたらと考えています。 ■